JRCU
JR東海労

# 東京地区分会情報

2012年3月15日
第 100 号
発行責任者 佐藤雅巳

## ノーモア福島！全ての原発を廃炉にしよう!

### 「金儲け」のために国を滅ぼしてもいいのか？

昨年の３・１１東日本大震災から一年がたちました。しかし復興の兆しは一向に見えてきません。そして私たちがもっとも危惧する福島第一原発は、いまだ危険な状況が続いています。

野田首相は昨年１２月、福島第一原発は「冷温停止状態にある」と「収束宣言」をしました。それを受けた原子力安全･保安院は、３月に定期検査中の関西電力大飯原発３、４号機、さらに四国電力の伊方３号機も安全評価（ストレステスト）の一次評価で「妥当」とする審査書案を出しました。そして３月１日には、なんと首相自ら「再稼働にむけて先頭に立つ」と発言しました。

福島を中心に放射能に汚染された地域の除染は進んでいません。そして福島第一原発からはなおも放射能はもれ続けているのです。また稼働停止中の原発の安全が保たれているのかは非常に疑問です。

私たちは政府・財界・官僚・マスコミ・御用学者などの「原発マフィア」たちによる、世論操作にだまされてはなりません。

そして日本列島は今、地震多発期にあり巨大地震が発生する確立が非常に高くなっているのです。再び原発事故が繰り返されるような事態になれば日本は滅亡も同然といえるでしょう。「目先の金儲け」のため国民を犠牲にしても、何とも思わない輩と今こそ闘わなければ、私たちの未来はありません。

そこで分会は、原発事故における様々な問題を分会情報を通じて皆さんにお知らせします。私たちは、いま何をなすべきなのか?を共に考え、行動するためのきっかけになれば幸いです。

## もっとも危険な福島第一原発「4号機」

３・１１大震災のときに福島第一原発４号機は稼働していなく原子炉に核燃料はありませんでした。しかし３月１２日に１号機が、３月１４日に３号機が爆発したあとに、３月１５日に４号機も爆発しました。それは燃料プールにある１３３１体の使用済み核燃料と、新燃料２０４体の１５３５体が「電源喪失」のため過熱し水素爆発を起こしたのです。

つまり原子炉で使用した核燃料は３～４年ほどで炉心から取り出して新しいものと交換します。そして取り出された「使用済み燃料」は崩壊熱を出すので原子炉建屋の上部に設置された貯蔵プールに入れ、水を循環させて冷却を続けます。今回の事故では電源喪失のため、水を循環させることができなくなりました。そして燃料の崩壊熱で冷却水の温度が上昇し水が蒸発したことで、プールの水位が下がり燃料棒が水から露出しました。そのため燃料の核物質をおおっているジルコジウムという合金が酸化して水素を発生させ、これが原因で爆発したのです。

ところが東電は、４号機爆発の原因は「３号機から流れ込んだ水素が原因」と「４号機プール爆発説」を否定しました。しかし３号機と４号機をつなぐ配管は、３号機が１４日に爆発した爆風で完全に外れています。何故、東電はいまだにウソの情報まで流して事故の原因を隠そうとするのでしょうか？

それは４号機がもっとも危険な状態にあるからです。つまり爆発で原子炉建屋は新聞報道の写真でも明らかなように、外壁や屋根も吹き飛び鉄骨や原子炉本体も丸見えの状態にあります。そしていまにも崩れそうな状態のなか、燃料プールは建屋上部にあり、しかもウラン燃料は鉄よりも重くそのプールの壁は４メートルもあります。そのため東電はプールを支える補強工事をやっていますが、それは工事現場の足場と同じ鉄パイプを多数並べてあるだけです。

もし大きな地震が発生すれば、建屋は崩壊し燃料棒がばらまかれ大量の放射性物質が拡散し、東北･関東全域の２５０㎞圏内は避難が必要と言われています。

## 全国「原発稼働停止」でも危険

ところで４月には全国５４基ある原発は定期検査などで、全て稼働停止される予定です。しかし稼働停止された原発にも、福島第一原発と同様に大量の使用済み核燃料が貯蔵されています。

そして東海地震の危険がせまる最も危険な浜岡原発では６６２５体、柏崎刈羽で１２６７２体、福井の美浜・高浜・大飯原発・敦賀を合わせると８１５６体、首都圏に近い東海第２は２１６５体あります。

これらの使用済み核燃料は、原子炉が格納容器にカバーされて外部から遮断されている状態とは違い建屋のなかのプールに入っているだけです。もし地震が起き津波や電源喪失などの事態が起きれば、福島第一４号機と同じ水素爆発や放射性物質の大量飛散という事態を招きます。

したがって、原発は稼働停止状態でも決して安全ではないのです。全国から集められた使用済み核燃料や放射性廃棄物は、青森県六ヶ所村再処理工場内の巨大な 3000 トンプールいっぱいになっているのです。そして現在稼動停止している六ヶ所村再理工場は、再開の目途すらたっていない状況なのです。まさに原発とは「トイレなきマンション」なのです。

【参考文献】「第二フクシマ日本滅亡（広瀬 隆・朝日新書)」「原発のウソ（小出裕章・扶桑」「東京新聞」